

2000年4月1日から2015年7月31日までマイコプラズマ感染症と診断された患者さんへ

研究課題名：マイコプラズマ感染症の肺病変ならびに肺外病変の検討

マイコプラズマは飛沫によってヒトからヒトへ感染し、家族内や学校など小集団内で呼吸器感染症の流行を引き起こします。本菌による感染症は肺炎を起こすことが多く、市中肺炎の原因菌として頻度の高い微生物です。本菌による肺炎は比較的軽症であることが多いのですが、数%で致死的な経過をたどることが知られており、その報告が増えています。さらにマイコプラズマ感染症は肺外—例えば髄膜炎や脳炎など重篤な合併症を引き起こすことでも有名です。しかし、どの程度の患者さんが重症化し合併症を併発するか分かっていません。

当教室では川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て、2000年1月1日から2015年7月31日の間にマイコプラズマ感染症と診断された患者さんを対象とします。マイコプラズマ感染症の病態を明らかとするため、肺病変ならびに肺外病変を解析します。本研究の成果として治療に難渋するマイコプラズマ感染症の治療方針が明らかとなり、患者さんに対する適切な治療法が実施可能になります。

本研究は観察研究であり、既存資料のみを用いた研究であるため、新たな人体試料の採取は行いません。また、個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では主任研究者の教員研究費のみを使用いたします。総合内科学1教室は大正富山医薬品株式会社、第一三共株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、武田薬品工業株式会社、アステラス製薬株式会社から、呼吸器内科教室は第一三共株式会社、協和発酵キリン株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、中外製薬株式会社、アステラス製薬株式会社、アストラゼネカ株式会社、大鵬薬品工業株式会社、MSD株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社から年間50万円以上の奨学寄付金を受け取っていますが、利益相反委員会に申告を行い適正に管理されています。尚、上記企業は本研究とは関係ない企業です。

本研究への不参加や、参加取りやめを希望される方または、何か不明なことがありましたら、実施責任者である下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

[問い合わせ先] 総合内科学1 准教授 宮下修行

電子メール：nao@med.kawasaki-m.ac.jp

電話 086-225-2111(内線8006)